



POD2

Version 2.0

Software Update Kit for the original POD

アップグレードガイド



株式会社サウンドハウス

Professional Sound Equipment
S p e c i a l i s t

〒286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡 1958

TEL:0476-22-9333 FAX:0476-22-9334

はじめに

この度は、LINE6 社製の POD2 アップグレードキットをお買い上げ頂き、誠に有り難うございます。この Version2 ソフトウェアを使うことにより、既にご愛顧頂いている ‘POD’ に、ユーザーの要望に応じ、製品デザイン部が考え出した数多くの新機能や改良を加えることができます。

ご使用になる前にこの取り扱い説明書を必ずお読み下さい。

準備及びインストールについて

初めに、POD のメモリー・バックアップの仕方について説明します。その後に 2.0 新バージョン・ソフトのインストール方法をご説明します。

注意：2.0 ソフトをインストールすると POD のメモリーはすべてリセットされ、プログラム済の既存のサウンドは消去されます。ご注意ください。

幾つかのサウンドをミックスしたものを POD のメモリーに記録している場合、パソコンや MIDI 機器でバックアップするか、POD パイロット・ガイドの裏表紙折込みのログ帳に記録し、メモリーのバックアップをして下さい。SOUND DIVER ソフトを使って全てのサウンドをコンピューターに保存したり、POD 操作ガイドの DEEP 編集と MIDI コントロールの説明に従って MIDI 機器にバックアップすることも可能です。

ここでは既存のサウンドを SOUND DIVER を使って保存する方法を説明します。

既存のサウンドを保存する方法

SOUND DIVER ソフトを既に使用している場合

前のバージョンの SOUND DIVER ソフトを使い、POD のサウンドを編集したりコンピューターに保存している場合、既存の POD のサウンドがすべて SOUND DIVER の Library ファイルに保存してあることを確認するだけです。念の為 SOUND DIVER の Library ファイルが正常に開くかも確認し、そこに保存されたサウンドを POD から呼び出し・保存を行ってみて下さい。また、Library ファイルがコンピューターのどこにあるのか把握しておいて下さい(ここでファイル名を “POD UP GRADE SOUNDS” とでもしておきましょう。)

そして、ソフトウェアのチップをインストールします。この際、SOUND DIVER の構築 ver.2.0 の説明も必ずお読み下さい

1. SOUND DIVER をインストールする場合

初めて SOUND DIVER をお使いになる場合は次の手順に従って下さい。必ず新 ver.2.0 のソフト・チップを POD にインストールする前に以下の作業を行って下さい。

1) POD の MIDI 接続

POD をコンピューターの MIDI インターフェースに接続します。MIDI の入出力を両方使って、双方に信号が流れるようにします。(これにより、POD からコンピューターへ、コンピューターから POD へと信号が両方向に送信可能になります) POD 出力はコンピューター入力に、コンピューター出力は POD 入力に接続していることを確認して下さい。また、POD の電源が入っているかどうかを確認します。

2) SOUND DIVER をインストール

POD2.0 対応の新バージョンの SOUND DIVER をインストールします。付属 CD に SOUND DIVER のインストーラーが入っています。また、ネット(www.line6.com)上のサポート・ページにアクセスして最新版 SOUND DIVER について時折りチェックして下さい。SOUND DIVER のインストーラーを起動して SOUND DIVER をコンピューターにインストールします。この状態で POD は MIDI を経由してコンピューターとの接続が完了し、電源も入っています。新しくインストールした SOUND DIVER を使ってみましょう。

3) SOUND DIVER を起動

初めに“スプラッシュ画面”がでてきます。ここには EMAGIC 社の紹介の他に完全版 SOUND DIVER ソフトのアップグレード機能についての説明がされています。次にダイアログ・ボックスがでてきますので、ここで英語又はドイツ語を選択します(SOUND DIVER はドイツ企業 EMAGIC 社の製品です)。

4) Macintosh 版

次にポートを指定します。Mac の上の正しいポート(モデム/プリンター)に差し込んでいるかどうか確認し、OK ボタンをクリックする前にこのポートの選択ワクをチェックして下さい。

Windows 版

MIDI ポートに関連するダイアログ・ボックスがいくつもでてきます。ここでは Port XXXX no longer exists(ポート XXXX は存在しません)といったメッセージが表示され、OK ボタンが合わせて表示されます。通常は Sound Blasta に関するダイアログが2つ、Unitor ポートに関するダイアログが8つでてきます(Unitor とは MIDI インターフェースのことです)。ダイアログの OK ボタンをクリックしたら、次ぎに進みましょう。

5) メモリーの呼出し

この状態で SOUND DIVER と S POD が連動し、コミュニケーションが取れるようになっています。(注意：上記で既にふれましたが、この状態にするには MIDI IN/OUT が両方共接続されているかどうか今一度ご確認下さい)。するとダイアログ・ボックスに Request Device's Memories?(デバイスのメモリーを呼び出しますか?)というメッセージが表示されますので OK をクリックして下さい。すると SOUND DIVER が POD ver.2.0 からすべてのサウンドをひきだして“POD2.0”というファイル名で画面上に表示します。

6) メモリーの選択

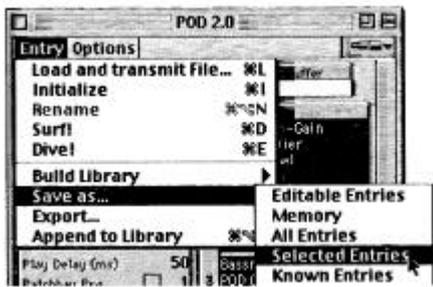
画面は右図のようになります。マウスで画面上のポインター（矢印）を User Programs のヘッダーバー（図参照）に移動し1回クリックします。すると全ユーザー・メモリ32個のリストがハイライトされ、32個すべて選択されていることを知らせます



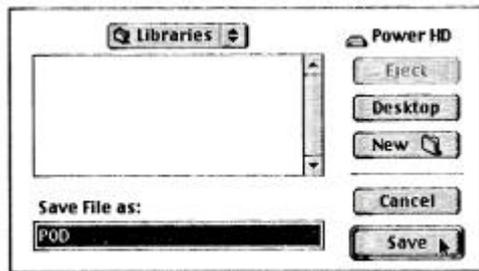
7) メモリーの保存

Macintosh 版

画面上には2つのメニュー（Entry/Option）が表示されます。Entryメニューを選んで“Save as...>Selected Entries”を選びます（下記参照）。



すると、保存ファイルのダイアログ・ボックスが表示されます。ダイアログ・ボックスの一番上にあるポップアップ・メニューが Libraries と表示し、そのライブラリーを SOUND DIVER のライブラリー・ホルダーに保存することも教えてくれます。



ユーザーがライブラリー・ファイルをどこか別の場所に保存したい場合にはこの Libraries をクリックすれば別の場所に導いてくれます。ファイル名を変更したい場合はここにその名前を入力します（POD Pre-Upgrade Sounds のような名前登録することをオススメします）。最後に“SAVE”（保存）をクリックすれば保存は完了です。

Windows 版

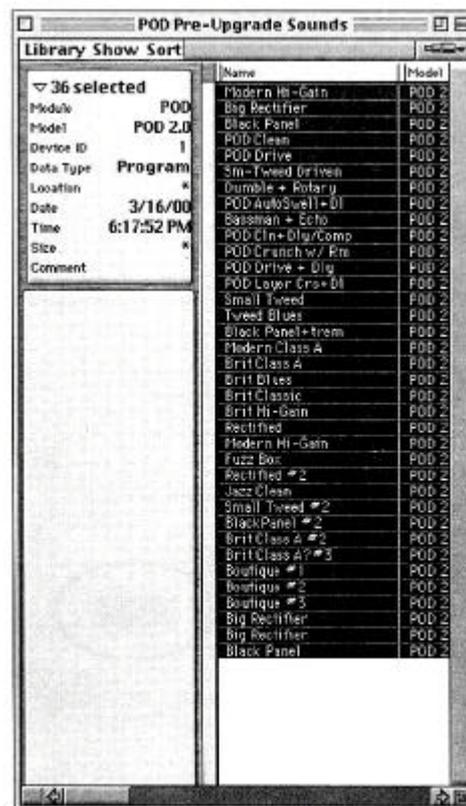
Windows の場合、Entry メニューは画面の一番上にファイルやその他のものと一緒に表示されます。Entry メニューから“Save as...>Selected Entries”を選んで下さい。すると、保存ファイルのダイアログ・ボックスが表示されます。SOUND DIVER ソフトのライブラリー・ホルダーが自動的に選択されますのでここにライブラリーを保存します。ファイル名を変更したい場合はここにその名前を入力します（“POD Pre-Upgrade Sounds”のような

名前で登録することをオススメします)。最後にSAVE(保存)をクリックすれば保存は完了です。

8) 保存場所の確認

最終確認として保存したいファイルが保存すべき所にセーブされているかどうか確認します。

“File”メニューから“Open”を選んで、保存したばかりのライブラリーを開きます。すると右の図のような画面が現れ、PODの36個すべてのメモリーをリストアップします。



お疲れ様でした。PODのメモリー・バックアップはすべて完了です。これでアップグレード・チップをインストールする準備が整いました。

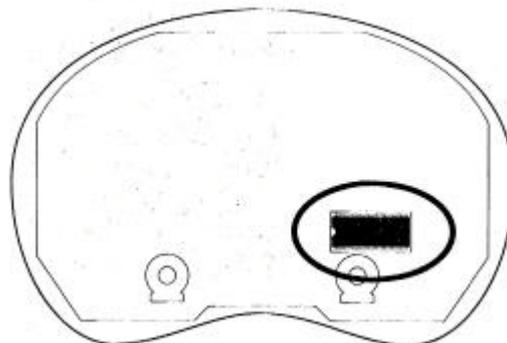
Ver.2.0のチップをインストールする

アップグレード・チップのインストールはいたって簡単です。やや長めのドライバーさえあればできます。

注意：アップグレード・チップをインストールしますと、それまでのPODメモリーはすべて消去されてしまうので、前述のとおり、既存のメモリーはバックアップしておいて下さい。

1. ケースをとりはずす

- 1) テーブルなどの上にタオルを広げます。その上にPODをさかさまに置いて下さい。ペダル端子を向こう側、ギター入力とヘッドホン出力端子を手前側にします。
- 2) 4ヶのシャフトがPODの底部にあります。ドライバーを差し込んで4つのネジを外して下さい。
- 3) ネジをとりはずしたら底部をPODから外します。ここでサーキット・ボードが見え、右下にソケット・チップが見えます(右図の で囲んだ部分)。



- 4) 付属のチップを取り出す道具を使ってソケット・チップを取り外します。上方向にまっすぐ引っ張って下さい。少しずつ横に回して締めることができます。ゆるめる場合も同様です。
- 5) ここでアップグレード・チップを用意します。チップの片側には小さなへこみがあります。このへこみを左側にして下さい。ソケットにも同様なへこみがありますのでチップと同方向にします。まず、チップをそっとのせて足がソケットの穴に揃えます。一部の足については多少のプレッシャーを使って調整する必要がある場合があります。すべての足を並べ終わったらチップを所定の位置に押し込みます。ソケットの端を確認してすべての足が穴にきちんとはまっているかどうか確認します。端に接触していないように注意して下さい。見た限り問題がなければよいよ POD の準備ができました。
- 6) POD の底カバーを元どおりかぶせてネジを締めます。これで POD のバージョンアップはすべて完了しました。

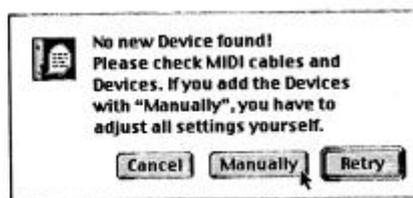
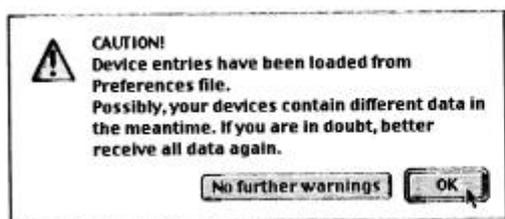
SOUND DIVER ver.2.0 の構築

チップのインストールが完了したら POD ver.2.0 を使いこなせるようにしましょう。POD2.0 をよりよく知る為に SOUND DIVER について解説していきます。

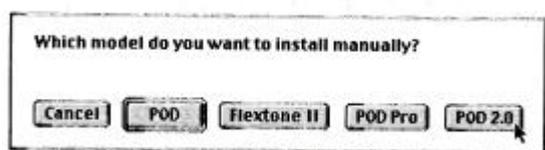
注意：アップグレード・チップをインストールしますと、それまでの POD メモリーはすべて消去されてしまうので、前述のとおり、既存のメモリーはバックアップしておいて下さい。

1. SOUND DIVER の再構築

- 1) 現在コンピューター上で SOUND DIVER を起動している場合はそれを中止して下さい。SOUND DIVER は POD の電源を切るか接続を切り離れた状態から立ち上げる必要があります。すると SOUND DIVER が確認のメッセージを流し POD が新バージョン 2.0 を認識します。
- 2) POD をコンピューターから切り離すか、あるいは単に電源を切った状態で、SOUND DIVER をスタートして下さい。左図のようなダイアログ・ボックスが表示され、その後右図のような表示がでます。



Manually (手動式) ボタンをクリックすると、次のダイアログ・ボックスで SOUND DIVER を使用しているデバイスが何であるのかを聞いてきます。



- 3) まだ何もクリックせずに、画面に上記のダイアログ・ボックスを表示させ、POD をコンピ

ューターの MIDI IN/OUT に接続したままの状態電源を入れます。その後、POD2.0 ボタンをクリックします。するとコンピューターは POD2.0 を検出し、認識します。そして Request Device's Memories? (デバイスのメモリーを呼び出しますか?) というメッセージがダイアログ・ボックスに表示されますので OK をクリックします。これで、SOUND DIVER は POD ver.2.0 から全てのサウンドを呼び出して “POD ver.2.0” というファイル名で画面上に開きます。

- 4) ここでアップグレードする前に作ったサウンドをアップグレードした POD にミックスする準備が整いました。そのサウンドが保存されているサウンド・ライブラリーを開き、ライブラリー・ウインドーの中のお好きなサウンドを、現在 POD に表示されているサウンドにドラッグします。プリセットのサウンドに戻したいという場合を想定し、変更を行う前に POD ver.2.0 プリセット・サウンドの SOUND DIVER ライブラリーを作っておく事をオススメします。前述の POD ver.2.0 の保存方法をお読み下さい。



POD2

NEW FEATURES

バージョンアップ内容のご案内



株式会社サウンドハウス

Professional Sound Equipment

S p e c i a l i s t

〒286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡 1958

TEL:0476-22-9333 FAX:0476-22-9334

はじめに

この度は、LINE6 社製の POD2 をお買い上げ頂き、誠に有り難うございます。Version2 ソフトウェアは、既にご愛顧頂いている POD にユーザーの要望に答えて製品デザイン部が考え出した数多くの新機能や改良を加えることができます。

ご使用になる前にこの取り扱い説明書を必ずお読み下さい。

この説明書では機材に関して全詳細に触れていますが、まずは製品の概要から説明していく事にしましょう。

ここでは既存のサウンドを SOUND DIVER を使って保存する方法を説明します。

新機能

1. 32 通りのアンプモデリング・アンプ

POD2.0 には 32 通りのモデリング・アンプが搭載されており(旧モデルでは 28 通り)、フロントパネルのつまみで選択できます(この機能により 1 ~ 16 以上のモデリング・アンプを使用する際 SOUNDDIVER ソフトを使用する必要がなくなりました)。TAP ボタンを押したままモデリング・アンプのつまみを回して 17 ~ 32 のアンプを選択します。

アンプの新モデルについては後ほど詳しくご紹介します。

2. ミックス&マッチ・キャビネットモデル

POD では旧モデルから SOUNDDIVER を通して様々なタイプのスピーカーに接続していましたが、POD2.0 ではダイレクトにスピーカーへ接続できるようになりました。TAP ボタンを押したまま Effect ツマミを回せばキャビネットを選択できます。キャビネットのタイプについては後ほど詳しくご紹介します。

3. カスタム・メイド可能

アンプ・モデルのつまみとエフェクト・つまみの役目は今や、アンプ・モデルやエフェクトの選択だけにとどまりません。例えば Rectifier アンプ・モデルの場合、ドライブ/低域/中域/高域を自動的に設定し、ロック系音楽に最適な状態にします。たった 1 つのつまみをひねるだけで準備完了というわけです。エフェクトのつまみに関しても同様です。さらに便利なのは、各アンプ・モデルのつまみとエフェクト・つまみの位置に記録された設定をそのままセットできることです。これによりオリジナルで作った POD の音を、自分の作品に反映させることができます。MANUAL ボタンは自動設定を解除し、つまみの位置通りの音を出す事ができます。このボタンについても後ほど詳しく説明します。

4. 音の送信

POD のユーザーは素晴らしい音を作り出す為にこの機能を頻繁に使います。この ToneTransfer システムは全ての音楽制作において有利な機能なのです。第一に、POD で使用している全ての音楽を Flexitone II シリーズのアンプや新 PODPro に移行させる事ができます。第二に、この音楽の拡張ライブラリーはホームページ：www.line6.com で入手できます。ライブラリーには音楽ジャンル/アーティスト名から検索またはログインしてご自分の好みにあうサウンドを見つけて下さい。ホームページ上ではユーザーが作った音をライブラリーに加えることができます。当社でも今後も素晴らしいサウンド・コレクションを引き続き加えていき、最高のギター・サウンドを提供していきます。

5. POD をアンプ対応にチューニングする

POD には AMP/DIRECT スイッチが付いており、様々な設定において POD の機能を最大限に引き出してくれます。ミキサーやレコーダーに直接 POD をつなげる場合は DIRECT の位置に設定します。別のギター・アンプを使用してフロント・エンドの音造りをするために POD を使用する場合は AMP の位置にして使用します。AMP にチューニング・モードの選択肢を増やしましたので、パワーが大きくても選択できるようになりました。初期設定において POD はオープンバック・コンボタイプのギター入力につないでありますが、新しいチューニング・モードにおいてはクローズバック・タイプのパワーアンプ入力またはクローズバック・タイプのスピーカーのどちらにも接続が可能です。詳細については後ほど図解でご説明します（POD の接続方法の説明に際して図解があるとわかりやすいというユーザーの要望にお応えしました）。

改良点

POD に新機能を付け加える一方で、更にいくつかの改良も加えました。

1. チャンネル切替の迅速化

チャンネル切替機能はより高性能に仕上げられ、結果、迅速かつ円滑なものに仕上がっています。チャンネルを変える際、POD は次々にチャンネルを変えるパラメーターのみを更新します。例えば 2 つのチャンネルがリバーブ・レベル以外すべて同じ設定にしてある場合、そこでチャンネルを切換えるということはリバーブ・レベルだけを更新することになります。チャンネル切替がほぼ瞬時に、かつ確実に行われます。

2. 新 SOUND DIVER

SOUND DIVER ソフトは最新版にアップデートされたので、Flexitone II アンプ ' PODPro/POD2.0 そして POD のすべてに対応するようになりました（最新版 SOUND DIVER のダウンロードに関しまして当社ホームページ：www.line6.com の Support Section の欄を必ずチェックして下さい）。

改良されたチューナー - 半音階のチューナーがより迅速にかつより正確に機能するようになりました。

アンプ・モデル

旧モデルの POD では (ver.2.0 以前) 28 種類のアンプ・タイプが内蔵されていました。そこでは 1 ~ 16 のアンプは AMP MODEL のつまみから、残りは SOUND DIVER の Deep Editing ソフトや同様のモデルをプリセットしたプログラムから選択していました。そこで POD ユーザーの皆様の「コンピューターなど使わずに POD から直接全てのアンプ・モデルにつなぐ簡単な方法はないか」という声にお応えしたのが Version2.0 です。今回、4 種類のアンプモデルをメニューに追加しました。

1. アンプモデル 1 ~ 16

Amp Model つまみを回しアンプモデル 1 ~ 16 を選択して下さい。アンプモデルの名前はつまみの周りに記してあります。

2. アンプモデル 17 ~ 32

TAP ボタンを押したまま Amp Model つまみを回し、アンプモデル 17 ~ 32 を選択して下さい。下記の表は各つまみのアンプモデルの対応表です。

(Hold Tap and turn to:)	Amp Models 17-32	Based on
(Line 6 Clean)	Line 6 Twang*	Fender Deluxe and Bassman
(Line 6 Crunch)	Line 6 Crunch #2*	'68 Marshall Plexi 50 watt
(Line 6 Drive)	Line 6 Blues*	Marshall JTM-45 meets Budda Twinmaster
(Line 6 Layer)	Line 6 Insane*	Way too many hours of shredding
(Small Tweed)	Small Tweed #2	'60 Tweed Fender Champ
(Tweed Blues)	Boutique #3	Budda Twinmaster head
(Black Panel)	Black Panel #2	'65 Blackface Fender Twin
(Modern Class A)	Brit Class A #3	'60 Vox AC 15
(Brit Class A)	Brit Class A #2	'60 Vox AC 30 non-Top Boost
(Brit Blues)	California Crunch #1	'85 Mesa Boogie Mark IIc+ Clean Channel
(Brit Classic)	California Crunch #2	'85 Mesa Boogie Mark IIc+ Drive Channel
(Brit Hi Gain)	Boutique #1	Dumble Overdrive Special Clean Channel
(Rectified)	Rectified #2	'95 Mesa Boogie Dual Rectifier Head
(Modern HiGain)	Modern HiGain #2	'89 Soldano SLO Super Lead Overdrive
(Fuzz Box)	Boutique #2	Dumble Overdrive Special Drive Channel
(Tube Preamp)	Jazz Clean	1987 Roland JC-120 Jazz Chorus

* 印の付いたモデルは新採用。

新採用のアンプモデルの詳細

Line 6 Twang (TAP ボタン + Line 6 Clean)

このモデルは Fender Blackface Deluxe アンプ ' 60s モデルと Fender Bassman ' 50s モデルを基調にデザインされています (クラシックな Fender のギラつくハイエンドとビンテージアンプに充ちた音のうねりが特徴) 。 Drive つまみがトップレンジに入るまでクランチャーな音はでません。ここでは黒色の Deluxe や Bassman よりも幅広いトーン・コントロールが可能です。

Line6 Crunch # 2 (TAP ボタン + Line 6 Crunch)

このサウンドは 50W の Marshall Plexi ' 68s モデルを使用しているスタジオで作られました。ですが Plexi とは異なり、このアンプモデルではより幅広いトーン・コントロールが可能です。

Plexi では一度オーバー・ドライブするとトーン・コントロールはあまり機能しなくなりますが、POD では Drive が最高値に設定されていても中域を拾ってくれるのです。

☞ Line 6 Blues (TAP ボタン + Line 6 Drive)

この音は Mashall JTM-45 Bluesbreaker ' 65s モデルを基調としていますが、もっとも幅広いトーン・コントロールが可能です。このモデルは、高めの Drive 設定にすると Budda Twinmaster の一種による柔らか目にオーバードライブされた音調を変えられます。

☞ Line 6 Insane (TAP ボタン + Line 6 Layer)

ここで目指した事はできるだけ入力ゲインのディストーションを入れる事でした。音調の詳細や性質は保持したままで、現在存在するどのアンプよりも大量のディストーションを加えることのできる素晴らしいチューブ・ドライブを手に入れたのです。結果として、幅広い音形態を数多く伴ったボトム・エンドやスピーカーの性質が得られるようになりました。ドライブ・コントロールを上げ、自由に音を操って下さい！

ミックス & マッチ・キャビネット (スピーカー) ・モデル

バージョン 2.0 以前では POD のキャビネット・モデルは、各アンプモデルと共に自動的に選択され、SOUND DIVER ソフトを使ってキャビネット・モデルを変更できました。SOUND DIVER のユーザーの皆様からは、‘これはとても便利な機能なので、コンピューターがなくても、このスピーカーモデルのフル・セレクションにアクセスする何かいい方法はないか’ という声があがっており、その声にお応えしたのがこの機能なのです。

スピーカーモデルの選択

TAP ボタンを押したまま Effect ツマミを回して 16 ヶのキャビネットモデル・セレクションの中からお選びください。

下記の表は選択できるキャビネット・モデル一覧です。

1x8	1960 Fender Tweed Champ
1x12s	1952 Fender Tweed Deluxe
	1960 Vox AC-15
	1964 Fender Blackface Deluxe
	Line 6 1x12
2x12s	1965 Fender Blackface Twin
	1967 Vox AC-30
	1995 Matchless Chieftain
	Line 6 2x12
4x10s	1959 Fender Bassman
	Line 6 4x10
4x12s	1996 Marshall with Vintage 30s
	1978 Marshall with stock 70s
	1968 Marshall Basketweave with Greenbacks
	Line 6 4x12
No Cab	You will probably want to use this Cabinet model with the Tube Preamp model for non-guitar sources. It is selected by default when you pull up the Tube Preamp Amp Model.

カスタム・メイド

新 2.0 バージョン・ソフトで Amp Models や Effect ツマミから呼び出した設定をオリジナルに変更することができます。この素晴らしい新機能を使って、あなたしか持っていない世界中でたった 1 つのサウンドを POD に収納しておけるのです。1 つのツマミを回すだけで瞬時にこの機能が使用できます。この機能をどのように使いこなしていくかという点ですが、Amp Models と Effect ツマミを回すとどうなるのかというところから説明していくことにしましょう。Amp Models ツマミをまわすとモデリング・アンプを選び出し、Effect ツマミを回すとエフェクトが選択されます。

これら 2 つのツマミですが実際には、それぞれシーンの背後に多数のパラメーターが設定されています。モデリング・アンプを選ぶと、POD は下記に示したコントロールを Amp Models のツマミで決定した値に設定します。

Controls affected by the Amp Models Knob
Amp Model
Cabinet Model
Drive (and also Drive 2, if Amp Model is Line 6 Layer)*
Bass
Middle
Treble
Bright Switch (if available on Amp Model) *
Channel Volume
Distortion On/Off (Hold Tap, turn Drive to set)
Volume Boost On/Off (Hold Tap, Turn Channel Volume to set)
Presence Bump On/Off (Hold Tap, Turn Treble to set)
Presence Level
Reverb Decay
Reverb Type *
Reverb Tone *
Reverb Diffusion *
Reverb Density *
Noise Gate Decay Time *
Volume Pedal Location (before or after the Amp Model) *
Volume Pedal Minimum *
Wah Minimum *
Wah Maximum *

印の付いているコントロールはオプションです。

アクセスするには SOUND DIVER ソフトまたは MIDI が必要です。

同様に、Effect ツマミを回すと選択したエフェクトに関連しているすべてのパラメーターを設定します。

この機能により、これら全てのパラメーターをユーザーそれぞれの好みで独自に調整することが可能になったので、Amp Models ツマミと Effect ツマミは 16 パターンになりました。この方法で Amp Models ツマミを Rectifier の位置に回した場合はユーザー独自の Rectifier として機能します。前述のリストにあるコントロールで、オリジナル版の Rectifier を入手することができます。コーラスやトレモロなどといったエフェクトはたった 1 つのツマミで選択することができます。

では、作りだした音は正確にはどこに保存されるのでしょうか？アンプモデルをオリジナルで作出した場合、選択されたアンプ・モデルのツマミの位置に保存することになります。例えば、Rectifier を使用し、そのアンプの設定でカスタム保存を行えば、Rectifier の位置につまみを回せばいつでもこ

の設定を呼び出すことができます。あるいは SmallTweed を使用し、そのアンプの設定でカスタム保存を行えば、そこにその設定は保存されるのです。POD は、その時に設定されているアンプモデルの位置に関係なく、適切な場所を選び出し、そこに情報を記録してくれます。ですから誤って Modern Hi Gain 設定を Small Tweed の位置に保存してしまうことはありません。エフェクトに関しても同様です。POD は、トレモロやロータリー・スピーカーなど何を使用しているても適切なツマミの位置に保存します。

現在どのアンプモデルを使用しているのか、またはどのエフェクトを使用しているのか分からなくなつてオリジナルを作る前にもう一度、把握したい時なども簡単です。

Save ボタンを押し（または押したまま）、Amp Models ツマミ又は Effect ツマミを回すだけです。正しい位置に回せば、チューニング・インジケータの矢印が両方とも点灯します。アンプモデルが 17~32 モデルの 1 つだった場合は Tap ボタンもはっきりと点灯します。

さあ、これで何をすればいいのかがはっきりしたと思います。それでは次に進みましょう。

カスタム・モードをアクティブにする

初めにすることは Amp Models ツマミや Effect ツマミに保存しておきたいアンプ設定やエフェクト設定を決めることです。このアンプ設定やエフェクト設定は、プリセットされた音からのものであったり、独自に編集した音であったり、Web サイトからダウンロードした音であったり、あるいは SOUNDDIVER で呼び出した音からの設定となります。その音がどこから引っ張ってきたものであっても、しなくてはいけない事はその音を POD に保存することです。これによってアクティブ状態になり、保存されたものを再生していきます。

次に、Save ボタンを押して（又は押しつづけて）、Manual ボタンを押して下さい。Save ボタンと Manual ボタン、A と B のライトが一斉に点滅し始めます（ボタンはこのままにしておいていいです）。ここでカスタム・モードになります。Up/Down 矢印を使って A を選択する場合は Amp Models ツマミに現在のアンプ設定を保存したいコマンドを POD に出して下さい。B を選択した場合、POD は現存のエフェクト設定を 'Effect' ツマミに保存したい事を認識してくれます。以下にその手順を簡潔にまとめてみました。

1. POD に保存したいアンプまたはエフェクトを決めて下さい。
2. Save ボタンを押したまま、Manual ボタンを押して下さい。Save/Manual/A/B のライトが点滅します。
3. Up/Down 矢印を使って A（アンプ）、または B（エフェクト）を選択します。
4. Save を押せば保存は完了です。（途中で中止する場合は Manual を押して下さい。）

トーン・トランスファー機能

POD を使えば、コンスタントに拡張されていくサウンドを得ることができます。また POD/POD Pro/Flexitone II シリーズの音を使用することもできます。スタジオや練習に使った POD のサウンドを、ライブに使用する Flexitone II アンプに移すこともできます。友人の Flexitone II のサウンドをご自分の POD に移すことも可能です。

当社のホームページ www.line6.com の Tone Transfer Web ライブラリーにアクセスしてこの機能を確認して下さい。トーン・ライブラリーは、アーティスト名や音楽ジャンルなどで検索できますのでチェックしてみてください。

また、オリジナルの POD サウンドができた時は、是非ライブラリーにその作品を加えて世界中のユーザーで共有しましょう。これは当社が目指していることの1つで、POD やその他の Line6 製品シリーズをユーザーの皆様が音楽制作に使用できる最強のツールにしていくことです。

POD をアンプ向けにチューニングする

別のギター・アンプにおいて大変便利なトーン・シェイプ・フロントエンドとして、または多彩な機能を持つ‘プリアンプ’‘パワー・アンプ’‘スピーカー・キャビネット’として使用することもできます。新バージョン 2.0 では異なる状況下にも対応する最適なチューニングがいくつか加えられ、異なる設定においてもベストな音を得ることが出来るようになりました。

新キャビネット・チューニングモード

初期設定において POD はオープン・バック・キャビネットのフロント部分に接続されています。それ以外に接続したい場合は、キャビネットのチューニング・モードを変更します。次ページに示した簡単な手順にそって変更して下さい。

1. POD の電源を入れ Save ボタンを押したままにします。POD の画面にはキャビネットチューニングモードを示すアルファベットが表示されます。
2. の矢印ボタンを押して、モードを選択します。
3. Save ボタンを押せば、これでこの設定を POD に保存できました。

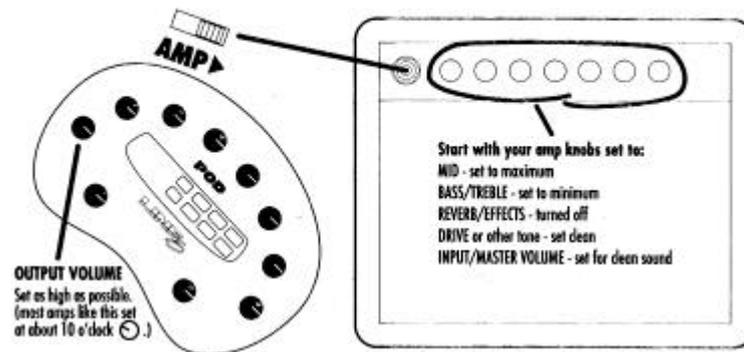
Use Mode...	when POD is...	& your speaker cabs are...
A	feeding power amp	closed back (<i>ideal for 4x12 cab</i>)
B	feeding power amp	open back (<i>ideal for 1x12 or 2x12 cab</i>)
C (default)	in front of combo/head	open back (<i>ideal for 1x12 or 2x12 cab</i>)

別のギター・アンプのフロント面に POD を接続する場合や、パワー・アンプやスピーカーに接続する場合には次に示した図をご覧ください。どんな場合においても POD の左側の出力をアンプ入力（モノラル）に接続します。ご自分のセットアップから最高の結果を得るには、‘DIRECT’ ボタンのある A.I.R. スイッチを試してみてください（小さめのアンプに使用する時に最適です）。また、アンプの他のツマミの設定も行ってください。

接続例：

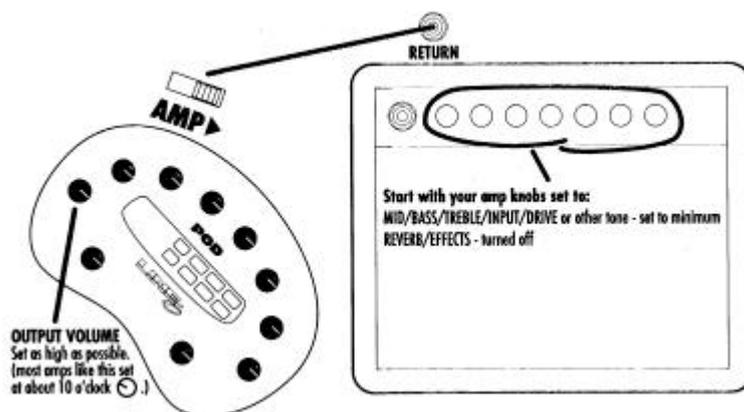
* コンボ・アンプやヘッドのフロント・エンドとしての POD 使用

POD As Front End for a Combo Amp or Head



* コンボ・アンプやヘッドの INSERT/RETURN に接続

POD Connected To Insert/Return of a Combo Amp or Head



* POD をパワー・アンプに接続しスピーカーを鳴らす。

POD Into a Power Amplifier Driving Speaker Cabinets

